拝啓　今年も早や1月末となりました。いつもエンカウンターをお読み頂きありがとうございます。近所の公園を、毎朝散歩をしておりますが、太陽が昇って1時間後くらいの時、非常にきれいな光景が見られますが、そのために良い道順を発見しました。

今回は、小西芳之助先生の『わが主イエスよ―恵心流キリスト教・説教集―』の14回目ですが、3ページ「Tryが好き」という項には、次のように書かれています。

「私は「考える」ということよりも「試みる」ということが好きであります。英語でThinkと申しますが、ThinkよりもTryの方が好きであります。好きというより、むしろやってみたい。…Try。Think ばっかりしていて、考えて、信仰とか何とか言って、聖書の勉強と言って頭ばっかり使っていても駄目です。為すのです。」とあります。小西先生は、Tryという言葉がお好きで、たびたび話されました。

小西先生の伝記を出版するために、今年の正月休みは、あとがきや年譜など一生懸命書きまして、1月15日に原稿を渡し、20日に教文館と契約をしました。7月31日までに、出版されることになりました。どうぞよい本が出来上がりますよう、お祈り下さい。

1月24日、南原研究会の例会で、三谷隆正先生の「幸福論」が報告されるので、がんばって全頁読み直しました。昔が学生のころ読んで、難しかったこの本が、だいぶ分かるようになり、最後の結論のところで、「かくて幸福とは、地上においても天上においても、盛んなる命に満ちあふれることだ。そのためには、われら人間の限りある貧しき命が、もっと豊かな永遠的な命につながれなければならぬ。そのためには、唯見たり悟ったりするだけでなく、もっと突込んで、いのちをもっていのちに迫るのでなければだめだ。天上においても、地上においても、この挺身的な没入、そのひたむきな帰依が幸福の奥義である。…」とあるのを読んで、感動しました。いろいろ経験を重ねて、77歳になってここに書いていることは、その通りだなあ、と思えるようになりましたことをうれしく思います。

バークレー先生の「希望と永遠に生きる――ウイリアム・バークレー一日一生」という霊想書を毎朝、小西先生の「主の御名を呼ぶ」と共に読んでいますが、1月23日のところに次のように書かれてありました。

「私は今アメリカから1通の手紙を受け取ったところである。私の知らない婦人からのものだが、封筒の裏にこう書いてある。

手紙よ、野越え山越え海越えて行け
おまえを運ぶすべての人を、神よ、祝したまえ、
目的地なる家の人々、
とりわけ宛名の人を祝し給え

とありますが、エンカウンターを読んで下さる御一人お一人に、祝福がございますように。

冬来たりなば春遠からじで、これからは温かい日も増えてくると思いますが、皆さまも、お身体ご自愛され、お過ごしくださいますように。

1月26日　　山口周三

エンカウンターの読者各位